

令和7年12月第447回大野市議会定例会の結果について(教育委員会関係分)

資料I

○議案等の審査結果について(教育委員会関係分)

議案番号	議案名	結果	備考
議案第123号	令和7年度大野市一般会計補正予算(第4号)案	賛成多数で可決	12/16 可決
議案第127号	大野市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例案	全会一致で可決	12/16 可決

OR7.12.16 総文厚生常任委員会委員長報告(教育委員会関係分要約)

項目	報告内容(要約)
議案第127号大野市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例案	○委員から本市の利用対象者数について、また保護者は複数の施設を利用することは可能かとの質問があり、ひと月当たり0歳児で3人、1歳児で1人、2歳児で1人程度の利用を想定しており、実施認可を受けた施設であれば、いずれの施設の利用も可能であると回答があった。
その他	○20歳のつどいについて、委員から、開催時期の希望調査結果について質問があり、令和6年度の参加者に対し実施したアンケートでは、1月開催が53.3パーセント、3月開催が46.7パーセントとの結果であったことが報告された。委員から、開催時期については、これから20歳となる方に対しても、アンケート調査等を実施するとよいのではないかとの意見があった。 ○教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について、事業の効率性に対し事業費削減の検討を行う視点は大切であると考え、記載する内容の言葉選びには留意されるとともに、点検・評価で捉えた課題にしっかりと取り組まれない。 ○スクールバスの運行要件に係る柔軟な対応について、委員から、廃校となった理由だけにこだわることなく、本市の将来を担う子どもたちが、安心・安全に通学できるよう、今後、利用拡大に向けて検討されたいとの意見があった。

OR7.12.16 予算委員会委員長報告（教育委員会関係分要約）

項 目	報告内容（要約）
① 有終南小学校と富田小学校の各スクールバス運行管理業務委託に係る債務負担行為補正の変更について	○両業務委託の増額幅に大きな違いがある理由について質問があり、富田小学校は、市がマイクロバスを購入し運行を委託する方式で、人件費や物価の高騰の影響などを考慮して再度積算を行った額であるのに対し、有終南小学校は、中型バスを借り上げて運行する方式で、事業用の緑ナンバー車両を借り上げるため、委託料に車両借り上げ相当分が含まれ、国が改定した基準額を基に再度積算を行った額であり、この両業務委託の積算根拠の違いから、委託料の増額幅に差が生じるものであるとの答弁があった。委員からは、令和8年4月の運行開始までに、児童の安全・安心な通学の確保に万全を期されたい。
② 病児保育の市内実施について	○委員から、病児保育について課題があることは承知しているが、医師会ともよく協議し、市内で実施されるよう、今後も鋭意努力されたいとの意見があった。

OR7.12.16 こども政策・公共施設等改革特別委員会委員長報告（教育委員会関係分要約）

項 目	報告内容（要約）
大野ですくすく子育て応援パッケージの中間実績について	<p>○委員から、パッケージの中には未執行の事業が見受けられることから、障がいのある子どもの送迎サービスなどは、実績がないことを理由に事業の縮小や廃止をすることなく、いつでも利用できる環境を整えていただきたいという意見があり、人の配置が伴う事業については、利用実績にかかわらず、継続的に対応していると答弁があった。</p> <p>○病児デイケア事業について、委員から、令和8年3月に病後児保育が再開されるが、病児保育再開に向けた今後の検討などについて質問があり、医療機関に対し理解がいただけるよう、引き続き依頼していくとともに、病気等で子の看護が必要となる際に、保護者が仕事を休める環境づくりに向けた啓発など、総合的に取り組んでいきたいとの回答があった。</p> <p>○一時保育について、委員から、実施事業者数及び利用者数と、受け入れによるトラブルの有無などにつ</p>

	<p>いて質問があり、市内全ての公立保育園・民間認定こども園で受け入れが可能であり、令和6年度の実績で、延べ1,034人の利用があった。トラブル等の報告はない。県の補助事業を活用し、保育士のメンタルケアなどに取り組んでいるとの説明があった。</p>
--	--

○令和7年12月第447回大野市議会定例会代表・一般質問（教育委員会関係分）

質問議員	質問内容	答弁内容（要約）【答弁者】
12/1 (月) 笹山晃一議員 (一般)	<p>孤立する子育てを防ぐプッシュ型支援への転換について【こども支援課長答弁】</p> <p>定期的に赤ちゃんと保護者の顔を見て、安否確認や悩み相談を行うような「見守り機能」を備えたプッシュ型のアウトリーチ事業の導入を検討すべきでは</p>	<p>○妊娠届出時には、母親の健康状態や出産に対する不安・悩みをお聞きし、出産後の支援に関するニーズを確認する。出生届出時には、産婦のメンタルヘルスの確認や母親の負担軽減につながるよう家族への協力を依頼する。乳児と産婦の1か月健診では、医療機関において母子の健康状態を確認するとともに、母親の精神的な状態を把握する。産後2か月頃には、専門職が乳児のいる全ての家庭を訪問し、母子の心身状態の把握と育児相談を行う。これらの支援は、すべての妊産婦と乳児を対象とした包括的な支援で、子育ての不安を減らし、子育ての孤立防止と健康維持につながっている。</p> <p>○本年度から「産後ケア事業」を開始し、特に育児不安が強い方や周囲からの協力が得られにくい方を対象に、心身のケアや育児サポートを実施している。さらに、産後うつリスクが高く、重点的かつ継続的な支援が必要と判断される家庭には、繰り返し、電話や訪問によるサポートを行っている。引き続き、母子保健の充実を図り、支援につなげる過程においては、子育てに関する不安を取り除き、育児の見通しを立てられる情報発信や、気軽に相談できる環境づくりに取り組んでいく。</p>

<p>12/1 (月) 野村勝人議員 (一般)</p>	<p>有終南小学校グラウンドの芝生化整備について【教育総務課長答弁】</p> <p>グラウンドの芝生化工事が変更により、工事費が増額となった理由および工事の詳細と費用負担について説明を求める</p> <p>○工事の概要は、グラウンド約9,500㎡のうち、7,667㎡を芝生化するための基盤整備やスプリンクラー24カ所を設置する機械設備工事。揚水ポンプ1基を動かすための電気設備工事。管理備品等の保管庫1棟を新設する建築工事など</p> <p>○変更の理由は、当初の設計で出来るだけ経費を抑えるよう、掘り起こした土をそのまま埋め戻しに使用することとしていたが、石を含んだ土を埋め戻しに使用した場合、地表付近に石が現れ、グラウンドの使用に影響が出るため、地表から15cmは購入土で埋め戻す方法に変更した。揚水ポンプに使用する電気を電柱から引き込むこととしていたが、電力供給会社とのやりとりの結果、校舎キュービクルから電気を引き込む方法に変更した。</p> <p>○覚書に従って、市は芝生を育てる会にグラウンド芝生化整備に係る工事費と維持管理用の備品購入費を合わせた事業費から、地域スポーツ振興くじ助成金と民間事業者・個人からの寄付金を除いた519万3,780円を団体負担金として納付を依頼し、そのうち、芝生を育てる会からは、本年2月末に240万円が納入された。覚書では、「事業年度内の負担額に不足が生じる場合は、次年度以降に分割できる」としているため、納付方法について芝生を育てる会と話し合いながら、残りの団体負担金の納入を継続して依頼していく。</p>
<p>12/2 (火) 林順和 (一般)</p>	<p>安心して子育てできる教育環境の改善について</p> <p>① 国が進める学校給食の無償化を巡る議論で懸念していることはないか確認する【市長答弁】</p> <p>○本年2月に交わされた自由民主党・日本(にっぽん)維新の会・公明党の合意により、学校給食が全額国費で賄われるものと期待していた。</p> <p>○ところが、対象を公立小学校に絞り、全国の給食費の平均額を支給するなどの論点も含めた検討が行われ、今後、国と地方の負担割合も焦点となるとされている。</p> <p>○全国市長会においては、11月13日に「学校給食の無償化に関する緊急意見」を政府与党に要請している。緊急意見は、地方負担が生じるような財政支援ではなく、国の責任において、必要な額を全額国費で確実に確保する仕組みとされるように強く求める内容。</p> <p>○市としても地方負担が生じることに懸念しており、緊急意見に賛同し地元選出の国会議員を通じて、全国市長会と同様の内容について、先般、緊急要請した。</p>

<p>② 第六次大野市総合計画後期基本計画(案)の策定に合わせて実施した中・高生アンケート結果の受け止めを確認する 【教育長答弁】</p>	<p>○「高校や大学を卒業後の居住意向」に関する調査では、「大野市に住みたい」が21.7パーセントで令和元年調査と同水準。「何年か市外に住んでその後、大野市に住みたい」は13.5パーセントと令和元年調査に比べて7.0ポイント減少し、「福井県外のどこかで住みたい」は46.3パーセントと令和元年調査に比べて8.4ポイント増加している。</p> <p>○教育委員会は、こどもたちのふるさとへの誇りと愛着を育むため、大野の人や歴史、文化、伝統、産業などを学ぶ教育を進めている。これからは、ふるさとについて学ぶだけでなく、地域の課題にも目を向け、その解決策を考え、ふるさとの未来を創造する活動に取り組むことが重要。子どもたちが地域を支える大人と触れ合い、ともに活動することを通して、社会に貢献する未来の担い手として成長していくものと考えている。</p> <p>○例えば、上庄小学校の児童がミズゴミコンポストの活動や、阪谷小学校の児童が地元バス会社と連携して企画し実現した阪谷の宝を紹介するあおぞらバスツアー、美しい星空を守るために、光害対策や脱炭素、星空学びを市民に呼びかける Ono-City Star Point Project、和泉小学校の児童が地域のイベントで披露する昇竜太鼓など、地域の大人と一緒に進める活動が挙げられる。</p> <p>○これらの活動を、18年をつなぐ教育で中学校・高等学校へとつないでいる。体験のみならず、地域に貢献する活動を盛り込んだ学習を積み重ねることで、ふるさと大野への誇りと愛着を一層育み、若い人たちが大野を想う気持ちを持ち続けてくれるものと考えている。また、ふるさと大野を基盤にして、自分らしく充実した生き方を見つけていってほしいと願っている。</p>
<p>③ 和泉児童センターを除く四つの児童センターを「他の施設への機能移転」とする理由と、旧上庄中学校を令和8年度から許可しない方針とした理由を確認する 【教育委員会事務局長答弁】</p>	<p>○理由は放課後の居場所づくりの充実とこどもたちの安全性の確保に加え、公共施設再編計画の趣旨である業務遂行上や政策的な観点から施設の必要性などを踏まえて、学校の空きスペースの活用など、他の施設に機能を移転するための検討を始めることとしたため</p> <p>○現在、有終南小学校の改修工事を進めながら、放課後の居場所に関する運用について検討を行っており、学校内で運用可能なスペースの面積と現在児童センターで使用している面積を比較すると、南部児童センターが果たす機能は維持できるものと考えている。</p> <p>○今後も、他施設への機能移転を検討する際は、安全・安心な居場所となることを第一に、児</p>

		<p>童の放課後の過ごし方の実態にあったものとなるように取り組んでいく。</p> <p>○旧上庄中学校については、令和7年度末までを目途に利活用策を検討しており、地元区長には、市としての活用予定はなく、地区による活用策があればご提案いただきたい旨をお伝えしている。また、民間での利活用に向けた手続きを進めることについてご了承をいただき、昨年12月に文部科学省の「廃校プロジェクト」に登録している。</p> <p>○これまでに数件の問い合わせがあるが、現時点では具体的に決まっているものはない。体育館とグラウンドについては、現在、中学校の部活動やスポーツ少年団活動など、社会体育での利用を継続しており、校舎については、一般利用を行っていない。</p> <p>○地区からの活用策のご提案は現在のところなく、体育館については、他の社会体育施設に空きがあるため、利用団体の活動場所の変更が可能であり、また、グラウンドについては利用実績がないことから、体育館とグラウンドの利用については、令和7年度末をもって終了する予定としている。</p> <p>○現在、体育館を定期的に利用している団体には、来年1月から個別に連絡し、他の社会体育施設へ活動場所を変更していただくよう依頼していく。また、それ以外の利用者に向けては、旧上庄中学校の体育館への掲示や市ホームページ、施設予約システムを通じて周知を図っていく。令和8年度からは、民間事業者による利活用に向け、公募などの手続きを進めていく。</p>
	<p>④ 令和8年3月末まで再編される小山小学校、阪谷小学校における取組状況を確認する 【教育総務課長答弁】</p>	<p>○大野市小中学校再編計画に沿って、令和8年4月から、小山小学校を有終南小学校に、阪谷小学校を富田小学校に統合する準備を進めている。</p> <p>○統合に向けて、来年3月21日に小山小学校で、3月22日に阪谷小学校で、議員各位をはじめ、区長や保護者、関係団体の皆さまのご臨席を賜り、教育委員会主催の統合記念式典の開催を予定している。</p> <p>○小山地区と阪谷地区では、各区長会を中心に統合記念事業実行委員会が組織され、統合記念式典の開催に合わせて、統合記念イベントの実施や記念誌、記念碑の製作などの準備が進められている。また、教育委員会では、小山小学校と阪谷小学校の保護者を対象に、体</p>

		<p>操服や内履きなどの学用品購入に対する支援に取り組んでいる。</p> <p>○学校においては、昨年度から授業や行事など交流を続けており、本年度は、事前交流に合わせてスクールバスの試乗や通学テストを実施し、子どもたちが安心して再編を迎えられるよう、取り組んでいる。</p>
12/2 (月) 岸 本 一 敏 議 員 (一般)	<p>大野市文化会館の廃止方針・高寿命化検討不足・市民合意について【教育長答弁】</p> <p>文化会館が閉館した場合、学校教育活動にどのような影響が生じるのか。児童生徒への教育的損失を教育委員会の立場から総合的に検証を行ったのか</p>	<p>○大野市文化会館あり方検討委員会に、教育や保育の立場からも委員として参画いただき、教育活動について、幅広い観点から検討された。この中で「子どもたちが行う文化活動の発表会は、他の施設でも開催が可能である」、「代替施設に良い音響や照明があればよい」などの発言をいただいている。</p> <p>○令和5年7月と本年5月の教育委員会定例会で、市長部局の所管課から文化会館の整備に係る検討状況の報告を受け、教育委員会としては、文化会館のあり方に関する議論の行方を注視してきた。教育委員会は、独自の検証は行っていないが、「大野市文化会館あり方検討報告書」にあるとおり、文化会館の閉館後も、学びの里「めいりん」講堂や結びぴあ多目的ホールなどの施設を活用し、子どもたちの文化芸術の発表や鑑賞の機会を保障していきたい。</p>
12/2 (月) 山 崎 利 昭 議 員 (一般)	<p>文化会館の代替施設について【市長答弁】</p> <p>20歳のつどいの開催状況について、昨年度の開催状況を踏まえてどのように考えているのか</p>	<p>○昨年度開催後、参加した20歳の方々を対象に実施したアンケートでは、式典会場について「とても良かった」「良かった」と回答した人が約6割で、普通を含めると約9割以上の方が肯定的な評価であった。自由記述では、「個人的な記念写真を撮れる場所が欲しい」、「入り口が多くて受付場所がわかりづらい」、「アトラクション時の恩師メッセージ動画の音声聞きづらかった」など改善を希望する意見が寄せられた。</p> <p>○保護者からは、駐車場が十分確保されていて会場内までゆっくり送迎することができたこと、わが子や同級生の晴れ姿を暖かい屋内で見ることができたことへの喜びの声があった。</p>

		<p>○これらを踏まえ、本年度は次の改善策を実施する。1点目は、ステージ両側に紅白幕を設置し、お祝いムードを創出する。2点目は、記念撮影がしやすいロビーにフォトスポットを設け、あわせて市内の青年団体に、写真撮影サポートを依頼し、気軽に撮影できるようにする。3点目は、会場案内表示を増やし、駐車場などからの動線を分かりやすくする。4点目は、アトラクション時の恩師からのビデオメッセージ動画を、音響を意識した統一的な仕様で撮影し、当日までに聞き取りやすくなるよう編集する。</p> <p>○現在、開催に向け公募により集まった実行委員による企画検討が進められており、地場産品をはじめとした賞品が当たるビンゴ大会や中学校時代の恩師からのビデオメッセージなどのアトラクションを予定している。人生の節目を迎える20歳はたちの方々を、市を挙げてお祝いし、思い出に残る楽しいひと時となるよう準備を進めていく。</p>
--	--	--